

# コロナ第5波直前における看護学科4年生の統合実習の展開 -2週間半日の臨地実習と終了時学生アンケート結果の報告-

石塚 睦子<sup>1)</sup>, 齊藤 敦子<sup>1)</sup>, 平栗 智美<sup>1)</sup>, 根本 友子<sup>1)</sup>, 正藤 倫音<sup>1)</sup>,  
上野 典子<sup>1)</sup>, 塩田 みどり<sup>1)</sup>, 山口 真理<sup>1)</sup>, 菊池 真弓<sup>1)</sup>  
了徳寺大学・健康科学部・看護学科<sup>1)</sup>

## 要旨

昨年度の3・4年生は、新型コロナウイルス感染症の流行によりほとんど臨地実習に行くことができなかったが、今年度4年生は、第4波が減少に転じていた時期であったため、感染対策を講じながら、半日臨地実習を2週間行うことができた。半日でも臨地実習ができた結果、感謝の気持ちとモチベーションが高まり、臨地実習後の学生の満足度も高く、看護に対する考えが広がり、就職後のイメージが醸成され、実習目標に近づくことができた。

本研究では、実施した感染対策と実習目的・目標達成のためのスケジュールの概要を述べ、実習終了時学生アンケートによる「目的・目標の達成度」、「満足度」、「自由記載内容」の結果について報告する。

キーワード: 新型コロナウイルス感染症, 統合実習, 感染対策

## Development of integrated training for senior nursing students before the fifth COVID-19 wave -Report on the two-week half-day practical training and results of the student questionnaire survey-

Mutsuko Ishizuka<sup>1)</sup>, Atsuko Saito<sup>1)</sup>, Tomomi Hiraguri<sup>1)</sup>, Tomoko Nemoto<sup>1)</sup>, Rinne Masato<sup>1)</sup>,  
Noriko Ueno<sup>1)</sup>, Midori Shioda<sup>1)</sup>, Mari Yamaguchi<sup>1)</sup>, Mayumi Kikuchi<sup>1)</sup>  
Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University<sup>1)</sup>

## Abstract

Most of the 3rd and 4th grade nursing students of last year were not allowed to receive on-site training due to the COVID-19 pandemic. However, as there is a decrease in the number of infected cases, the senior nursing students of this year were allowed to receive a two-week half-day practical training on the condition that they took verifiable infection control.

The students' feeling of gratitude and motivation increased because of being able to practice in the field even for half a day. Their satisfaction after the field training also rose. They expanded their way of thinking about nursing, imagined of being employed as a nurse, and almost achieved the goal of the practice.

In this study, we examined the measures the students took to reduce the risk of infection and their plan of schedule to achieve their goal. We also report the results of the survey in which we asked the students about "their achievement," "level of satisfaction" and "perceptions" after the practical training.

Keywords : COVID-19, integrated training, infection control

## I. はじめに

新型コロナウイルス感染症の第4波が減少に転じていた2021年7月、看護学科4年生89名は、2週間の統合実習を日々半日ではあるものの臨地で実習することができた。4年生の中には、3年次の様々な領域実習のすべてが学内実習であった者、一部のみ臨地実習を経験した者という状況であった。半日でも臨地実習ができた結果、感謝の気持ちとモチベーションが高まり、臨地実習後の学生の満足度も高く、看護に対する考えが広がり、就職後のイメージが醸成され、実習目標に近づくことができた。

本論文では、実習前・実習中に感染対策として学生に指導・実施したこと、実習目的・目標達成のための展開方法を報告し、実習後学生に調査したアンケートによる実習目標達成度と満足度、自由記載欄の内容から今後の実習展開への示唆を得たので報告する。

## II. 研究目的

研究目的は、2週間日々半日となった統合実習の目的・目標を達成するための展開方法を報告し、実習終了後の学生アンケートから見えてきた臨地実習を考察し、今後の課題を明らかにすることである。

## III. 研究対象と方法

### 1. 対象

A大学看護学科4年生統合実習生89名のうち回答が得られた83名(回収率93%)

### 2. 学生へのアンケート実施日

実習最終日:2021年7月16日

### 3. データ収集

Google forms<sup>®</sup>を利用した無記名アンケートで行い、自由意思による回答とした。

### 4. 質問事項

#### 1) 実習目的・目標の達成度

十分達成、達成、どちらでもない、あまり達成できなかった、まったく達成できなかったについての5肢択一

#### 2) 満足度

とても満足、満足、どちらともいえない、あまり満足していない、まったく満足していないについての5肢択一

#### 3) 自由記載

### 5. データ分析

選択肢は単純集計し、自由記載は類似内容をカテゴリー化し整理した。

### 6. 倫理的配慮

本研究は、了徳寺大学生命倫理委員会によって承認され(承認番号21-37)、アンケート実施時には、学生に目的・方法を口頭で説明し、個人情報保護に基づき個人が特定されないよう匿名性に配慮した。拒否の機会を保障しアンケート結果は成績に関係しないこと、アンケート回答をもって調査目的・内容を理解し同意したとみなすことを説明した。

#### IV. 実習概要

##### 1. 感染対策

2単位90時間が半日実習となった根拠は、新型コロナ感染症が落ち着く傾向を見せてはいても、実習で患者や医療者と関わる時間を短時間にし、マスクを外しての昼食に伴う感染リスクを避けるということがその理由であった。統合実習における感染対策については、病院と調整した結果を元に、感染対策内容(実習前2週間からの体温や一般状態に関する健康チェック表の記載と提出、コロナワクチンの接種状況の報告、PCR検査陰性の報告、同居者等が感染した場合の対応、マスクや手洗いの徹底、実習時の個人防護具や消毒液の準備、食事・栄養・睡眠・休息などの健康管理、アルバイトや外出の自粛など)をマニュアル化し、感染予防に努めた。

##### 2. 実習目的とスケジュール

実習目的は、「既習の看護に関する知識・技術・態度の統合を図り、医療チームにおける看護専門職の役割と責任を自覚すると共に複数患者の看護展開を体験し、自己の看護観を深める。」であった。目標は、「看護管理の実際の理解」、「複数患者の看護と多重課題時の看護の理解」、「夜間帯の看護の理解」、「多職種連携の理解」、「問題解決型の学習と倫理的行動への努力、看護観の育成」の5本柱であった。2週間のスケジュールは、表1に示したとおりである。

##### 3. 事前学習課題

各半日のみの実習となったため、目的・目標達成が効果的にできるよう事前学習課題を課した。

###### 1) 実習目標Ⅰ「看護管理の実際」の事前学習課題

看護部組織、看護部の理念・方針、看護部長の役割、看護師長・主任の役割、リーダーの役割、看護体制、看護方式、勤務体制、認定看護管理者、認定看護師の種類と役割、専門看護師の種類と役割について、実習までに調べて、記録用紙に整理し、実習初日に提出とした。

###### 2) 実習目標Ⅱ「複数患者の看護と多重課題時の看護」の事前学習課題

2週目に複数患者を受け持つ看護師のシャドウイングと看護の一部実施を予定していたため、その実習の開始直前に、4本のDVD(多重課題の場面とその時の看護師対応の問題例と模範例についての内容)を購入・視聴させ、学んだことを記録に整理させた。4本中1本のDVDは、夜間帯の看護の多重課題時対応の内容であった。

###### 3) 実習目標Ⅲ「夜間帯の看護」の事前学習課題

夜間帯の看護について実習で説明を受けるまでに、日本看護協会による「夜勤・交代制勤務に関するガイドライン」<sup>1)</sup>などをインターネットで調べて記録に整理するよう指導した。

###### 4) 実習目標Ⅳ「多職種連携」の事前学習課題

実習日 _____ 年 _____ 月 _____ 日( ) 学籍番号 _____ 氏名 _____		
<b>実習目標</b> _____		
I. 本日の目標(学習目標とその目標をあげた理由) 前日に自宅で記載してくる。		
II. 実習内容と学び 実習後記載し、翌日担当教員に提出する。		
時間	実習内容	学んだこと 目標の達成と課題
III. 病院担当者・教員からのコメント		

図1.日々の実習記録

表1. 統合実習2週間のスケジュール

		日	月	火	水	木	金	
1 週目	場所	学内		午前:臨地実習 午後自宅学習	午前:臨地実習 午後自宅学習	午前:臨地実習 午後自宅学習	午前:臨地実習 午後自宅学習	
	目標	目標Ⅰ.看護管理の理解 (火曜日～金曜日の午前中どこかで)目標Ⅲ.夜間帯の看護の理解,目標Ⅳ.多職種連携の理解 目標Ⅴ.倫理的行動,看護観を深める					目標Ⅱ.複数患者の看護,多重課題時の看護の理解	
	午前	全体オリエンテーション 実習目的・目標 展開方法 実習記録 貸出物品 事前学習課題の確認 他	●看護部長の講和 看護部の組織、看護方針、業務計画、人事管理、教育計画、看護部代表としての折衝・対外交渉など	●看護師長の役割の説明・業務の実際の見学 看護業務の管理、看護の質向上や業務の円滑化に向けた病棟内の取り組み、スタッフナースを統括・指導するための役割、看護部や看護師長間・他の部門との連携、主任看護師との連携	●リーダー(コーディネーター)の役割の説明・業務の実際の見学 チームメンバーや現場の情報収集をし、状況に応じた的確な判断、指示他職種との調整	●複数患者の看護実践のシャドウイングに向けて シャドウイング予定についての説明を受ける 担当予定看護師と学生 時間調整等のアドバイス 2週目に係る予定患者の情報収集		
	12:00～	昼休み	移動時間	移動時間	移動時間	移動時間	移動時間	
	午後	病院別オリエンテーション 担当教員・学生の自己紹介 病院への行き方 初日の集合時間・場所 緊急連絡網 出欠表 事前学習課題の確認	自宅学習 病院組織における看護部の役割について学んだことの整理 事前学習課題の見直し・追加・修正	自宅学習 病棟看護師長の役割について学んだことの整理	自宅学習 リーダー(コーディネーター)の役割について学んだことの整理	自宅学習 複数患者の看護のシャドウイングに向けて午前中の説明内容の整理・予習		
	記録提出	健康チェック表 目標Ⅰ・Ⅲ・Ⅳの事前学習課題	健康チェック表 本日の学習目標 ※実習要項・共通要項・事前学習課題は毎日持参	健康チェック表 本日の学習目標 昨日の学びの記録	健康チェック表 学習目標 昨日の学びの記録	健康チェック表 学習目標 昨日の学びの記録		
	2 週目	場所	学内		午前:臨地実習 午後自宅学習	午前:臨地実習 午後自宅学習	午前:臨地実習 午後自宅学習	学内
	目標	目標Ⅱ.複数患者の看護,多重課題時の看護に向けた事前学習 目標Ⅴ.問題解決型の学習,倫理的行動,看護観を深める	目標Ⅱ.複数患者の看護,多重課題時の看護の理解 目標Ⅴ.問題解決型の学習,倫理的行動,看護観を深める					実習目標全体を通して学んだことを共有 各自自己の看護観を深め課題を見出す
	午前	目標ⅡDVD学習 渕本雅昭監修,よくある場面から学ぶ多重課題全3巻,医学映像教育センター,2016. Vol.1 総論・予定変更1 Vol.2 予定変更2(報告・相談)・複数の行為 Vol.3 複数の人との関わり1・2	●複数の患者に対する看護実践のシャドウイング 11:30～12:00 看護師と質疑応答・翌日の計画調整	●複数の患者に対する看護実践のシャドウイング・一部実施 11:30～12:00 看護師と質疑応答・翌日の計画調整	●複数の患者に対する看護実践のシャドウイング・一部実施 11:30～12:00 最終カンファレンス 目標についての学び他	実習アンケート 貸出物品の回収 病院別に学びを整理⇒指定パソコンに張り付け 2限目の司会とタイムキーパー決定 2限目 病院別発表(1病院10分以内)		
	12:00～	昼休み	移動時間	移動時間	移動時間	移動時間	昼休み	
午後	翌日の学習目標・行動計画立案、事前学習	自宅学習 複数の患者に対する看護実践のシャドウイングを通じた学びの整理と翌日の計画立案	自宅学習 複数の患者に対する看護実践のシャドウイングを通じた学びの整理と翌日の計画立案	自宅学習 複数の患者に対する看護実践のシャドウイングを通じた学びの整理 最終レポートによる目標全体のまとめ	担当教員による指導・面談 記録の整理			
記録提出	健康チェック表	健康チェック表 学習目標 目標Ⅱ多重課題のDVD学習の学びの記録	健康チェック表 学習目標 昨日の学びの記録	健康チェック表 学習目標 昨日の学びの記録	健康チェック表 昨日の学びの記録 最終レポート 自己評価表 経験録 記録提出			

主な医療チームとして約20以上の職種を取り上げ、資格と役割(法律上の定義など)について記録に整理させた。

5) 実習目標Ⅴ「問題解決型の学習と倫理的行動への努力、看護観の育成」の事前学習課題

日本看護協会による看護職の倫理綱領2)について、その内容を整理させた。

5. 実習記録

午前中半日の実習には学習目標を立案して臨み、午後には自宅でその日の学習整理をするための実習記録(図1)を作成した。

## V. 結果

Google form<sup>®</sup>を利用し、4年生へ実施したアンケートの結果(回収率93%)を報告する。

### 1. 実習目的・目標の達成度

n = 83

計83名100%の学生が「十分達成した」,  
「達成した」と回答していた。

「どちらともいえない」,「あまり達成で  
きなかった」,「まったく達成できなかった」  
と回答した学生はいなかった。

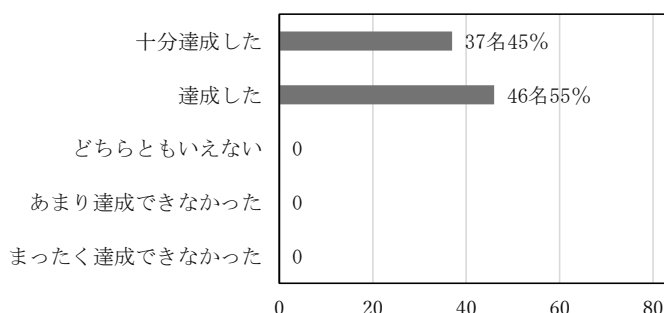


図2.実習目的・目標の達成度

### 2. 満足度

計79名95%の学生が「とても満足」,「満  
足」と回答していた。

「どちらともいえない」が3名4%,「まっ  
たく満足していない」が1名1%いた。

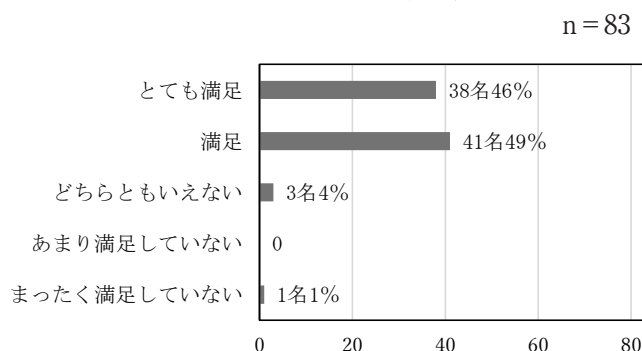


図3.実習の満足度

### 3. 自由記載

学生たちが記述した自由記載の内容につ  
いては、7つの要素に分類できた。要素ご  
とに関連した数を括弧内に示す。

#### 1) コロナ禍の実習への感謝(13)

コロナ禍で実習できたことが本当にありが  
たかった, 感謝しかありません, 大変な状況の中, 病棟での実習の機会を与えてくださりありがとうございました, など

#### 2) 意欲や主体性(3)

今回の実習が1番意欲的・主体的に参加できた, 今後の課題が明確になったため看護師に向けて様々な  
学習を深めていきたい, 不完全燃焼

#### 3) 半日でもよい学び(12)

半日でしたが臨地に行くことができ学びが多かった, 午前中という短い時間であったがたくさんのこと  
を学ぶことができた, など

#### 4) 指導体制・指導者・教員の評価(8)

半日であったが病棟も良い雰囲気です指導者の助言も適切で有意義な実習であった, 短い中でも質がある  
実習を行えたのは担当の先生含め指導係である病棟看護師さんのおかげ, 教員によって違う指導を統一し  
てほしい, など

#### 5) 実習目標・事前学習・記録物について(5)

具体的な目標がわかりやすかった, 目標に沿った記録物がわかりやすかった, 病棟に行くことで事前学  
習してきたことにプラスして学びを深めることができた, 指定にない記録を書くことになったが考えが深  
まった, 指定にない記録を書くことは負担, など

#### 6) 今までとは違う視点での学びの広がりや深まり(16)

3年までの実習では学べなかった管理職の役割, 多重課題について学べた, 今までとはまた違った視点  
からの学びを深められた, 看護管理は最終的に患者につながっていることを学んだ, 新たな視点で学びを

深められ看護観に変化がでた、トータルしていい学びができた、など

#### 7) 就職に向けてのイメージ化や不安の解消(6)

就職後の業務内容が理解できた、看護師の視点で学ぶことで現場に出た時にどのように行動していけば良いかわかった、夜勤業務や多重課題において実際がわかったことで漠然とした不安が解消された、将来のキャリアを見据えながら、看護専門職としての学習を深められた、来年就職する際のイメージがついた、来年、看護師として働くために大切なことを学べた、など

## VI. 考察

実習時期がコロナウイルス感染症第4波の収束時期であり、PCR検査やコロナウイルス感染症のワクチン接種、昼食・昼休憩をせず半日の臨地実習としたこと、その他実習概要で述べた様々な感染対策の徹底によって、2週間半日の実習では、コロナウイルス感染者を出すことなく無事統合実習を終えることができた。

今年度の統合実習履修生の多くは、2年次の基礎看護学実習(日常生活援助を通して看護過程を学ぶ2週間の実習)は経験していたが、昨年度半年間続く3年次領域別実習は、コロナ禍のために殆ど臨地に行くことができなかった。

臨地に行けることが当たり前の時代と違って、学生達は、半日でも2週間臨地へ行けることに感謝して実習に臨んでおり、「今回の実習が1番意欲的、主体的に参加できよき学びとなった」と表現している学生もいたようにそれが実習への動機づけとなっていたと考える。また、半日だからこそ集中して臨み、午後は自宅で学習の整理をして、翌日に生かして指導係・教員とのコミュニケーションが進展するという良い学習の循環がはかれてもいた。

実習の動機づけには、実習中の教育指導体制も影響する。今回、指導する側にとっても日々の半日実習が貴重な時間として意識されていた。具体的に目標を設定し、事前学習で学びの補強をし、目標に沿った実習記録を整備するなどの工夫をして2週間指導したわけであるが、学生からは「具体的な目標がわかりやすかった」、「目標に沿った記録物がわかりやすかった」という意見が聞かれ、「病棟が良い雰囲気であり、指導者の助言も適切であった」、「先生含め、指導係である病棟看護師さんのおかげ」、「質のある実習を行えた」など教育する側の関わりや学習環境がより良く学生に影響していたことが伺える意見が寄せられた。そのことも、学生の学習意欲を高め、有意義な実習に繋がったと考える。

学習意欲の高まりは、今回、実習後のアンケートで、83名全員が実習目的・目標は「十分達成した」または「達成した」という結果に結びつき、95%の学生が「とても満足」あるいは「満足」と回答した結果につながったと考える。

4年生の統合実習は、最終学年の実習であり、卒業生が翌年には看護師として働くことになる。看護師になる自分のイメージ化をはかり、現在の不安や看護師になったときのリアリティショックを緩和し、看護師の仕事の価値を多方向から考える機会となったことも自由記載欄から伺うことができた。

一人の患者の看護過程の展開を中心にした今までの実習とは違い、統合実習では、例えば、看護管理の実際、複数患者への多重課題時の看護、日中に限らない患者の24時間を考えた看護、多職種連携の実際に触れる意図的実習等々、今までにない方向からの視点で看護を考えさせた。複数患者へのシャドウイングや一部実施の統合実習をすることによって、情報収集一つとってもどこから何を収集するか考えなければならぬこと、多重課題に遭遇すると時間管理をしつつ、患者とコミュニケーションの質を落とさずに何

からどの順番で行動するのかという、コミュニケーションのあり方や行動の優先順位に直面することを学べる。そして、看護の全体を見渡して管理することも看護の質に影響していることに改めて気が付く。これまでにはなかった学びが、貴重な半日の中で学生達に伝わり、結果として、学生は、「看護師として働くために大切なことを学べた」や「就職に向けてのイメージ化や不安の解消につながった」、「視点を広げ学びを深められた」、「看護観が変化した」という回答を寄せてくれた。そのように学生に意図した目標が達成でき、私達教員も喜びを感じることができた実習となった。

実習目的・目標の達成度の質問に対しては、「どちらともいえない」「あまり達成できなかった」「まったく達成できなかった」と回答した学生はいなかったが、満足度の質問に対しては、「どちらともいえない」が3名4%、「まったく満足していない」が1名1%いた。

その理由として考えられることは、必ずしも自由記載欄に記載してくれたかはわからないが、「教員の指導内容・方法の統一性がはかられていない」、「不完全燃焼」などの少数意見にも着目して今後の課題としたい。「教員の指導内容・方法の統一性がはかられていない」については、学習環境や患者・学生の状況によって教育内容・方法を個別に変えることもある。その際学生の反応をとらえ、学生が腑に落ちるような指導方法になっているかの振り返りが私達指導する側には求められる。また、学生と教員の互いのやり取りやそこでの解釈などには時間を経て見えてくる場合がある。「不完全燃焼」という回答については、根拠が具体的に記述されていないため、自己の問題によるものか、指導体制を原因とするものかは明らかではないが、そのように感じた学生がいたことを心に留めて、また次回に臨んでいきたいと考える。

## Ⅶ. まとめ

コロナ禍における半日2週間の統合実習は、学習意欲を高め、学生によるアンケートでは、実習目的・目標の達成度・満足度ともに高かった。自由記載の内容は、大きく下記3点にまとめられた。

1. 学生は2週間半日ずつでも実習できたことに感謝しており、感謝の気持ちが実習への意欲向上と実習目標達成への動機づけ、満足感に繋がっていた。
2. 半日の実習であっても、広い視点で看護をとらえる統合実習の目標を達成できており、学生からは、就職に向けてのイメージ化や不安の解消がはかられ、看護観が変化したという言葉が寄せられた。
3. 満足度の低かった学生が一部おり、指導内容・方法を今後の課題としたい。

太田らは、すべて学内となった統合実習の報告において、「患者ケア実践をできなかったことは、看護の視点から適切に判断する、解決するために必要な“知識の補完”にとどまり、看護技術やコミュニケーション等の経験不足は否めない。看護技術経験は、就職後の新人看護師教育に頼らざるを得ない。(略)より一層基礎教育と臨床の連携強化をし、学生の卒業後のサポートをしていく必要性が示唆された。」<sup>3)</sup>と述べている。今回は、半日2週間の実習はできたものの、3年次領域実習は殆ど学内実習であったという4年生の実態がある。そのような現実をふまえて学校と臨床が今後も調整・連携していくことが重要であると考える。

## 文献

- 1) 日本看護協会：夜勤・交代勤務に関するガイドライン，[http://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/yakin\\_guideline.pdf](http://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/yakin_guideline.pdf) (2021. 7. 1 19:00アクセス)
- 2) 日本看護協会：看護職の倫理綱領，[http://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/rinri/code\\_of\\_](http://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/rinri/code_of_)

ethics.pdf (2021. 7. 1 19:00アクセス)

- 3) 太田晴美, 大崎真, 早坂笑子 (2021) 新型コロナウイルス禍の学内統合実習評価—学生アンケート結果から—大東文化学園大学看護学科紀要, 10(1), 27-41.
- 4) 齋藤みどり, 末永弥生, 根本友子ほか (2021) コロナ禍の統合実習プロジェクトチーム結成とシステム整備・運営の実際についての一考察, 了徳寺大学研究紀要, 15, 61-80.

2021年12月15日 受理  
了徳寺大学研究紀要 第16号